

(様式第2-2号)

団体概要書

(その1)

団 体 名	(ふりがな) きゅうやまがたしはんがっこうどうほぞんかつようじつこういもんかい 旧山形師範学校講堂保存活用実行委員会		団体の種別 (○をつける)	NPO法人 連合体	各種団体
主たる事務 所の所在地	〒990-0035 山形市小荷駄町 1-73		連 絡 先	電 話 090-6125-4170 F A X 023-633-5630 e メール 8koro@kxb.biglobe.ne.jp	
代 表 者 職・氏名	(ふりがな) かいちょう ゆうき あきお 会長 結城 章夫		会 員 数 等	個人会員数 23 人 団体会員数 団体 賛助会員数 人 専従職員数 人	
設 立 年 月 (活動開始年月)	令和5年6月	(NPO法人の場合) 認 証 (認 定) 年 月		年	
団 体 の 設 立 目 的	県指定の有形文化財でありながら長年立入禁止となっている講堂の保存・修繕を推進し、国指定重要文化財への追加指定を目指す。併せて、本館(現教育資料館)、正門、門衛所と一体の文化財群(エリア)として活用を図り、歴史・文化の振興に寄与する。				
活 動 分 野	※下記「活動分野」から1つずつ選択 【主たる分野】 6 【従たる分野】 3		主 活 動 地 域	山形市	

これまでの 活動実績 ※直近5か年の主 な活動実績を記載 してください	(主なもの) ※活動年月・活動内容がわかるように箇条書きで記載してください。 ・ 令和5年6月 実行委員会発足 ・ 令和5年12月 シンポジウム開催 テーマ「明治・大正期の講堂、保存と活用を目指そう」 ・ 令和5年11月～令和6年3月 県への要望活動実施を受けて、県による講堂屋根の修繕工事(養生シート設置)が行われた ・ 令和6年4月 県知事から要請を受けていた、講堂の現状に関する調査報告書を県に提出 ・ 令和6年9月 ワークショップ開催 テーマ「講堂の活用 いかそう ひろげよう 語り合おう」 ・ 令和7年3月 シンポジウム開催 テーマ「講堂の価値と三島通りの魅力」 ・ 令和7年6月 三島神社例大祭に合わせパンフレット「三島通りと旧山形師範学校」作成配布 ・ 令和7年10月 旧山形師範学校講堂保存活用イベント「Q しはんフェスタ！」開催
	(行政、企業、他団体との協働実績) ※活動年月・活動内容・協働相手がわかるように箇条書きで記載してください。 ・ 令和7年10月 旧山形師範学校講堂保存活用イベント「Q しはんフェスタ！」を山形県及び山形県教育委員会の後援のもとで実施
事業年度	4月1日 から 3月31日
ホームページ	有 (URL: https://9shihankoudou.wixsite.com/my-site-4) / 無
機 関 紙	有 (名称:) / 無

○活動分野

1 保健・医療・福祉	8 災害救援	15 科学技術の振興
2 社会教育	9 地域安全	16 経済活動の活性化
3 まちづくり	10 人権擁護・平和の推進	17 職業能力開発・雇用機会拡充
4 観光の振興	11 国際協力	18 消費者の保護
5 農山漁村・中山間地域の振興	12 男女共同参画社会の形成	19 市民活動支援
6 学術・文化・芸術・スポーツ振興	13 子どもの健全育成	20 その他
7 環境の保全	14 情報化社会の発展	

◆寄附者へのPR◆

(その2)

寄附を受けて取り組みたい事業の概要	<p>※どのような課題解決のために、どのような事業を行いたいのか分かり易く記載してください。</p> <p>(1) 文化財保存のための広報・啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財である旧山形師範学校講堂の保存・修繕(耐震補強工事を含む)の必要性について、県民の理解と参画意識を高める広報・啓発活動を展開し、貴重な歴史・文化資源の継承機運を醸成する。 県内建築士の指導、県立山形工業高校生実習による講堂の図面化および模型製作・発表を通じた学習・啓発プログラムの実施。 県立博物館教育資料館と連携した展示内容の更新と公開の充実。 門衛所・正門を観光・文化情報発信拠点として整備し、文化財群全体の価値を発信。 <p>(2) 文化・教育活動の展開による地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民啓発パンフレットの作成・配布。 本講堂周辺施設を活用した文化イベント(コンサート、ダンス発表、トークショー、茶会等)およびその練習機会の提供。 展示・体験学習など教育資料館(旧本館)と連携した歴史・文化学習プログラムの実施。 <p>(3) 地域と連携した文化財活用推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元学校・団体と協働したシンポジウムやワークショップ等の開催により、市民参画による活用の深化を図る。 旧山形師範学校一帯から洗心庵、三島通りを経て文翔館に至る一帯を歴史的な文化エリアとして捉え、文化財群としての一体的な保存・活用を進めることで、地域の歴史と文化の振興に寄与する。
県民・企業へのPR	<p>※県民・企業に向け、団体をPRするメッセージを記載してください。</p> <p>山形市の中心部にたたずむ旧山形師範学校は、明治34年、初代県令・三島通庸によって開削された三島通り延伸のアイストップとして位置しています。明治期の貴重な木造洋風建築であり、山形県の近代教育史を象徴する重要な文化遺産です。</p> <p>中でも「旧師範学校講堂」は、全国で唯一現存する独立型の講堂建築として、極めて高い歴史的価値を有しています。長く教育財産として使われてきましたが、平成20年以降、耐震性の問題により使用禁止となり、現在では老朽化が著しく進んでいます。</p> <p>私たちは今、この貴重な建物を未来につなげるべく、講堂の修繕と耐震補強を施し、市民に開かれた文化・教育施設として再生することを目指しています。コンサートや展示会など多彩な活動の拠点とし、本館(教育資料館)や門衛所・正門と連携させることで、エリア全体が文化・教育・観光のハブとなる未来を描いています。</p> <p>この再生計画は、単なる建物の保存にとどまらず、地域の歴史と誇りを未来に伝える文化運動でもあります。地域住民、文化団体、教育機関、行政が連携し、誰もが参加し育てる「開かれた文化財」として息を吹き返させる、さらには、三島通り沿線に位置する洗心庵、三島神社、遊学館、文翔館等とも有機的に結び付け、地域住民や来訪者が「歩いて学び・憩い・交流する」ことのできる歴史・文化・教育の拠点としてエリア全体を再編成し、地域の文化的価値の継承と未来への発信を行う——それが私たちの願いです。</p> <p>企業の皆さま、県民の皆さまには、この趣旨にご賛同いただき、ぜひ本プロジェクトへのご支援・ご参加をお願い申し上げます。</p>

この申請書に記載している事項に間違いはありません。

また、当団体は、山形県社会貢献活動促進基金実施要領第8条に規定する申請団体の要件を満たしています。

令和8年1月6日

団体名 旧山形師範学校講堂保存活用実行委員会
代表者職氏名 委員長 結城章夫